

# 第 136 回 景気動向調査

本所では、伊丹市内企業の景気動向を把握するため、四半期ごとに標記調査を実施しているが、このほど、第 136 回調査の結果を取りまとめた。本調査時点は 1 月上旬、調査対象期間は平成 26 年 10 月～ 12 月期、景気動向については「直前期」、経営動向については原則として「前年同期」と比較してもらった。

今回の調査結果（回答 43 社）によると平成 26 年 10 月～ 12 月の景気実績は「上昇」回答 7.0%（前回 8.0%）、「下降」回答 39.5%（前回 24.0%）、景気見通しは、「上昇」回答 9.3%（前回 12.0%）、「下降」回答 34.9%（前回 26.0%）消費増税の影響は、「あり」39.5%、「なし」60.5%となり、実績は厳しくなり、見通しも厳しい状況が続いている。

消費増税の影響は、「なし」が「あり」を上回った。

## 〔回答企業の業種別分布〕

業種 項目	対象数 (社)	回答数 (社)	回答率 (%)	構成比 (%)
一般工業	60	25	41.6	58.1
食料品工業	15	5	33.3	11.6
商業	30	7	23.3	16.3
建設業	20	2	10.0	17.2
運輸業	10	3	30.0	7.0
サービス業	15	1	6.6	2.3
全業種	150	43	28.6	100.0

## 〔産業別業況DI値〕

	業況	売上	採算	仕入単価	従業員
一般工業	▲24.0	▲28.0	▲28.0	▲60.0	▲8.0
食料品工業	0.0	20.0	▲20.0	▲60.0	0.0
商業	▲28.6	▲14.3	▲28.6	▲85.7	14.3
建設業	0.0	0.0	▲50.0	▲100.0	0.0
運輸業	▲100.0	▲66.7	▲33.3	▲33.3	0.0
サービス業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
全業種	▲25.6	▲20.9	▲27.9	▲62.8	▲2.3

(注) DI = (増加、好転などの回答割合) - (減少、悪化などの回答割合)  
業況、採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

## 〔消費増税の影響〕

	あり	なし
一般工業	40.0 (25.9)	60.0 (74.1)
食料品工業	0.0 (50.0)	100.0 (50.0)
商業	57.1 (57.1)	42.9 (42.9)
建設業	50.0 (0.0)	50.0 (100.0)
運輸業	66.7 (40.0)	33.3 (60.0)
サービス業	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)
全業種	39.5 (32.0)	60.5 (68.0)

※ ( ) の数字は前回調査結果分です。

## 〔景気動向について〕

### 業界の景気

	上昇	横ばい	下降
一般工業	8.0 (7.4)	56.0 (74.1)	36.0 (18.5)
食料品工業	20.0 (0.0)	40.0 (66.7)	40.0 (33.3)
商業	0.0 (14.3)	57.1 (57.1)	42.9 (28.6)
建設業	0.0 (0.0)	50.0 (66.7)	50.0 (33.3)
運輸業	0.0 (0.0)	33.3 (60.0)	66.7 (40.0)
サービス業	0.0 (50.0)	100.0 (50.0)	0.0 (0.0)
全業種	7.0 (8.0)	53.5 (68.0)	39.5 (24.0)

### 今後の景気の見通し

	上昇	横ばい	下降
一般工業	12.0 (11.1)	60.0 (74.1)	28.0 (14.8)
食料品工業	0.0 (16.7)	40.0 (33.3)	60.0 (50.0)
商業	0.0 (14.3)	57.1 (57.1)	42.9 (28.6)
建設業	0.0 (0.0)	50.0 (66.7)	50.0 (33.3)
運輸業	33.3 (0.0)	33.3 (40.0)	33.3 (60.0)
サービス業	0.0 (50.0)	100.0 (50.0)	0.0 (0.0)
全業種	9.3 (12.0)	55.8 (62.0)	34.9 (26.0)

### 〔トピック〕

**工業**  
輸入通関時に支払輸入消費税もアップしたため売上回収より先に支払う消費税がそれに伴って増えた。  
駆け込み需要とその反動が発生し、売上高が大きく変動している。  
消費増税により運転資金の捻出が難しい。  
販売数の減少。他社との安売り合戦。  
円安が大きく利益が出ない。小売価格アップが困難。日用雑貨はドラッグストア、スーパーとも前年比 10%以上ダウン。  
売上高減少、原料高が製品売価へ転嫁出来ない現状。  
仕入単価の上昇。  
下期での売上微減。  
作業着、給食施設のコスト、厚生施設の改修見送り  
受注減。  
金融機関からの資金調達。  
生産量の調整。  
消耗品購入の差し控え。  
付加価値の製品作り（地元の特産品を使用、地元メーカーと共同開発）  
コストチェックをして円安見通しを見てアップできることから修正及び廃止をして、半年程かけて対応及び新製品の開発。  
仕入先の見直しと現金仕入を売値が上がらないので最大限原価を安くするための努力している。  
検討中。  
値上げ対応、次年度予算にて対応。  
人員を増やさず、残業で対応していた。  
材料費率の上昇が収益に影響。  
為替の変化が早すぎるためビジネスの受注の組み立てが現状追いついていないように感じる。  
輸入比率の高い会社は非常に困難になるだろう。レート 100～105 が望ましい。  
円安の影響で原材料の仕入価格上昇するが価格に転嫁できず収益圧迫が続いている。  
若干の受注増加を期待していたが、予想以上に回復が遅い見込みです。

**商業**  
価格の上昇。  
寿司の出前が減った。  
増税後の 8 月くらいから節約傾向になっている。  
客単価、買い上げ点数の減少  
「出前やってます」の旗をあげたりしている  
新商品の開発  
接客対応の向上への取り組み。  
お客様の人数はあまり変化はないが、節約する人が多くなっている。見通しは少し下降するかも。  
やはり消費税を 8% にあげたのが影響していると思う。  
中小企業の税制面の優遇、大企業の下請への価格面での配慮、税の価格への転嫁。  
いまひとつ景気は良くない様子。

**建設**  
消費増税の為、本税及び予定納税額の負担がキャッシュフローに相当額ダメージあり。  
給与の手取金額、目減りしている最大の原因が高すぎる地方税。地方創生の前にみんなが苦しんでいる現状を直視してほしい。

**運輸**  
経費の増大。  
増税により世の中の物価が上がる傾向にある。しかしながら当方の運賃値上げはかなわず状況は厳しい。  
コストの削減めざす。  
荷主への理解を求めて働きかけるしかない。  
税の軽減策を実施希望。  
原油の値下がりには喜ばしい。